

サンワコムシスエンジニアリング株式会社 パートナー会社社長会

最優秀パートナー表彰 記念発表

～生きた対話とデジタル技術がもたらす安全管理の未来～

株式会社 Quality Technos

発表者: 佐藤 俊介

1. 会社概要・事業概要

「創る人をつくる。創る人が未来を創る。」

電気・電気通信の技術は社会の基盤を支える重要な役割を担っています。

私たちは、現場で活躍できる「創る人」を育てパートナー企業の皆さまとの協業を通じて、よりよい未来のインフラづくりに貢献します。技術と人材の両面から、信頼される存在を目指します。

通信工事

無線ネットワーク・携帯基地局・光ファイバー通信等の通信工事に関わる施工/施工管理

1級施工管理技士:2名 / 2級:5名
監理技術者:2名

電気工事

建築電気工事・プラント内電気工事・計装電気工事の施工及び施工管理

1級施工管理技士:5名 / 2級:9名
監理技術者:4名

設計事業

電気設備工事・電気通信設備工事に伴う設計一式
使用ソフト

:AutoCAD／Tfas／Jw_cad

※2026年4月1日時点の体制。設立から31年、社員数:40名(平均年齢35歳)30代(19名)がボリュームゾーンとなっています。

2. 安全に対する基本方針

- 🛡️ **社名に込めた「Quality」の誓い:** 単なる施工品質だけでなく、作業員の命を守る「安全品質」こそが、お客様からの信頼の源泉であると定義しています。
- 🌊 **「安全は全てに優先する」の浸透:** 納期や効率よりも安全を最優先する文化を醸成。現場での迷いを断ち切る判断基準を全社員が共有しています。
- ⚙️ **現場の「考動力」の育成:** マニュアルを遵守するだけでなく、現場の違和感に気づき、自ら「考えて動く」自律的な安全管理を推進しています。



3. 生きた対話 × デジタル技術で織りなす「安全管理の方程式」

当社が実践する安全対策の本質は、単なる精神論やツールの導入に留まりません。

【生きた対話(継続的な密なコミュニケーション)】 × 【デジタル技術(プラットフォーム／履行確認)】 = 真の安全管理



継続的な密なコミュニケーション (安全管理の体温・心理的安全性)

週次(対面・WEB)会議を通じ、現場のヒヤリハットや小さな不安を徹底的に対話で吸い上げる「心理的安全性」を確保。「わからないことを恥と思わず、正直に言える」環境作りが、重大事故の芽を摘む最大の防御となります。



デジタル技術

(安全管理の仕組み・土台)

Google Meet(WED会議)、Google スプレッドシート(予定管理)、ANDPAD(施工管理ツール)、Goodnotes(デジタルノート)、シェアポイント(クラウドプラットフォーム)等の最先端ITツールを全現場・全社員へ一気通貫で支給しています。

(安全管理の成果・実効性)

対話を形骸化させず、デジタル上で行動を可視化。全現場での対策が確実に「実行」されているかを追跡します。

4.生きた対話×デジタル技術の具体的事例 ①

🎧 WEB会議（生きた対話）× ANDPAD（デジタル技術）

- ▶ 画面共有を用いて、着工前、進行中、完工後の施工現場の実際の写真や詳細図面を事前・事後に全員で徹底確認。
 - ▶ 机上論ではない「リアルな事故リスク」を全員の目で事前に洗い出し、対策を事前構築。
 - ▶ ANDPAD（施工管理アプリ）の履行確認ツールを活用し、議事録で一人ひとりがリスクと対策を正しく理解できているかを確実にチェック。
- 次回週次会議で再確認で復習を実施。

- 🔧 **未来へのロードマップ（AI支援運用）**：WEB会議データを録画し、AIによる「課題の洗い出し」をさせることを検討しています。建設現場における安全管理は、現場の勘や経験（アナログ）に頼る部分が大きかったからこそWEB会議での議論（「ヒヤリハットの傾向」「若手への技術継承」「現場の負担」など）の中に**未来のAI支援運用やDX（デジタルトランスフォーメーション）**に繋がるヒントが大量に隠されている と思っています。



5. 生きた対話×デジタル技術の具体的事例②

KYボイス(生きた対話) × ANDPAD(デジタル技術)

- 朝礼・昼礼時のKY(危険予知)ミーティング音声を必ず録音し、ANDPADクラウドに保存・全社共有
- 他現場の「生きた生の声・リアルな対話」を聴き合える環境にすることで、日々の活動のマンネリ化や形骸化を防ぎ、常に「自分事化」と安全意識の同期を徹底。
- 発話記録を管理側がデータで追跡し、全現場での朝礼・昼礼においてリスク予測が確実に行われたかを確認。さらに、週次会議にてランダムで1つの音声をピックアップして全員で内容を討論し、班長(現場責任者)への実直なフィードバックを実施。

 **未来へのロードマップ(AI支援運用)**: 蓄積された「音声」を次世代AIで解析し、各現場に潜在するリスクの自動問題提起や、作業員の体調管理に連動する高度な安全管理体制の運用を目指します。

資料トップ > 2026年 > 5月 > 朝礼	
全て選択 全て解除	
資料名称	
☐	20260518_美祢美東赤局_前湯_朝礼.m4a
☐	20260518_旧鉱石庫盤撤去_米今勇作_朝礼①.m4a
☐	20260518_RプロSRH設備計装品設置工事_太田垣_朝礼.m4a
☐	20260518_肥後トンネルラジオ再放送_大林淳一_朝礼.m4a
☐	20260516_上野イーストタワー_柿沼_朝礼.m4a

現場名: ●●●●

責任者名: ●●●●

精査コメント

良好な点: 指名点呼による健康確認や、保護具の相互確認がキビキビと行われており、現場の規律が保たれている。

アドバイス: 3階での撤去作業は「運用中」と「撤去品」が混在しているため、誤切断や誤撤去のリスクが通常よりも高いです。

識別の徹底を周知で念押ししたほうがいいかと思います。

また、高所作業車の使用があるため、有資格者証の確認と周囲の立ち入り禁止措置の具体的な方法が周知させていたことは良かったPOINTです。(編集済み)

6. 安全は「信頼」の証

最新のITツール・デジタル技術(DX)と、一人ひとりの「考動(自ら考えて動く)力」を高度に融合させ、これからもサプライチェーン全体の安全模範であり続けます。

「安全」こそがお客様に提供できる最大の施工品質であるという強い誇りと責任を胸に、これからも社会インフラの安心を支え続けます。

ご清聴ありがとうございました